

アメリカ低血糖症支協会

Roberta Ruggiero 理事長よりメッセージ

昨年よりアメリカの低血糖症支援協会との交流がはじまりました。第6回研修会開催に際して、財団理事長のロベルタさんより日本の治療の会の皆様へメッセージをいただきました。以下、日本語に訳したものをご紹介します。

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

Message for Convention in Japan

柏崎理事長をはじめ、柏崎院長、そしてご参加の全ての皆様

米国低血糖症支援協会のデレクターやアドバイザーを代表し、そして「アメリカの仲間」として、低血糖症治療の会に共に参加させていただき感謝しております。本会の開会に際し、皆様にメッセージをお送りできることを非常に名誉なことと感じております。

まずは自己紹介をいたします。私はロベルタ・ラツギエーロと申します。米国低血糖症支援協会の理事長をしております。この団体は、低血糖症の原因、その影響、新しい治療法に関して広く知っていただくために、1980年に設立いたしました。この団体は、著書『低血糖症の手引：低血糖症への日々の対処法』、ホームページを通して、私の個人的経験や長年の研究を皆様と共有しております。

低血糖症は大変複雑で誤診される可能性の高い疾患です。私の目標とするところは、低血糖症をコントロールするあらゆる方法を知り、人々に伝えることです。低血糖症にあなたがコントロールされるのではなく、あなたが低血糖症をコントロールできるようにお手伝いしたいのです。

私が用いる手段は何であれ、お伝えしたいことは一つです。「あなたの症状は決してあなたの頭の中にあるものではない！」ということです。もし、あなたが深刻な鬱、疲労感、気分のむら、心の混乱、頭痛、(一時的な)意識喪失、動悸、不眠、イライラ感、自殺願望等に苦しんでいらっしゃるとすれば、それは、低血糖症によるものかもしれません。あなたは低血糖症の犠牲者といえるのです。

私は低血糖症の苦しい症状を理解しています。なぜならば、私自身が患者だったからです。何十人もの医師を訪ね、数多くの検査をし、効き目のない、また時には危険を及ぼすような薬を大量に与えられてきました。恐ろしい経験ですが、電気ショック治療さえ受けたことがあります。そのような10年間を経て、ついに、糖負荷検査と適切な食事が回復へと導いてくれることを私は知りました。

40年以上前に私の身に起きたことは、今日においてもいまだ起こり続けています。私が南フロリダの自宅オフィスにいと、毎日、世界中からメールが届き、中国、インド、パキスタン、アフリカ、さまざまな国の患者、親御さん、学生、教師、医師たちと連絡を取り合っています。そして、今回は日本の皆様とお話できました。

悲しいことですが、これまで連絡を取ってきた方々はそれぞれがこうおっしゃいます。「低血糖症は苦痛に満ちた日々を強い、人格を荒廃させるような状態に落ちいらせることを知っているし、実際感じています。」

低血糖症の方々への啓発に努める歳月の中で、反対に患者の方々から教わることも多くありました。彼らは、必要としているもの、欲しているもの、中でも、(望んでいるが)手に入っていないものを私に話してくれました。私は彼らの落ち込みも、不安も、恐れも知りました。私が出会った人たちは、口を揃えてこう言いました。「私が知ってさえいれば…」

私はこの会にご参加の皆様へ誓います。低血糖症を疾患として、医学の前面に位置づけられるよう絶えず働きかけることを。そして同時に、人々の生活をよりよいものに変えていくことを。

今、私たちは、パートナーとして出会い、互いに助け合うことができます。多くの人々の生活を脅かすこの疾患の治療に共に取り組んでいきましょう。

本日、みなさんの体験が多くの方の希望となり、決意となり、強さと忍耐となることを祈り望みます。共に、この状況を変えていきましょう。さあ、今それぞれができることから始めましょう！

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

